第172号（2000年９月）

調査と情報

編集・発行
㈱農林中金総合研究所基礎研究部
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
TEL. 03-3243-7331
FAX. 03-3246-1984
E-mail：kaneko@nochuri.co.jp

二十一世紀の農協に期待されるもの

新しい世紀を迎えつつある今、日本農業の本格的な構造変化が始まっている。

通勤圏内での兼業機会の増大や兼業所得の低位性と不安定性、国境措置による国内農業の厚い保護、そしてイエの存続を重視する文化的要因などさまざまな条件の下で、先進国としては類まれな小規模経営主体の農地利用構造が日本では維持されてきた。

このことをもって、これまでの農政が失敗であったと考える人は多い。現在の日本農業が国際的競争力を持たないのは事実だし、経済のグローバル化等の中で、今後日本農業が痛みを伴いながら変わっていかざるをえないのもまた確かであろう。

しかし、護送船団的な日本農業の現状は、短期間で急速に近代化を遂げた社会が辿らざるを得なかった、ある意味では必然的な道であり、後発資本主義国の発展過程で現われる一つの避けられない段階ではないかと私は考えている。そして、環境問題と資源の枯渇がさらに深刻化するであろう新しい世紀を迎えるにあたって、むしろその遺産であるプラスの側面を高く評価したく思う。

現在でも相当の山奥まで集落が広がり、そこに住む人々の努力で農村文化や里山の自然と共に、稲作という持続的で高度な農業が維持されている。都会生活者の多くが、原体験として農村風景を心に刻んでいることも、日本社会の大きな財産であるといえないだろうか。

とはいうものの、こうした状況を支えてきたさまざまな条件が、経済のグローバル化や世代交代の進行の中で大きく変わりつつあることも厳然とした事実である。土台が変わるのだから、その上の建造物（農業）の姿が変わるのは当然であろう。私たちが旧態依然と見なしがちな小規模兼業農家でさえ、実は環境変化への農家の巧みな適応の結果である。何人も、「万物は流転する」という真理を拒むことはできない。

こうした変化のなかで、これからの農協に求められているのは、まず新しい環境に適応すべく地域農業の転換を促進する役割であろう。そして、それとともに、「私たちの農業・地域社会はかくありたい」という、組合員や地域住民の希望を実現していく創造者としての力量であろう。農協がもし東京の霞ヶ関や大手町で作られる政策を実行するだけの機関なら、その使命はすでに終わっている。地域の実状を把握し、組合員や他の地域住民の意思を最大限に反映させながら、それぞれの地域で望ましい農業や地域社会のあり方をデザインし実現する創造力と実行力こそ、これからの農協に求められているといえるだろう。

二十一世紀はグローバル化の時代であるとともに、地域の時代である。自分たちの目で見、考え、新しいものを協同して造っていくことのできる若い人々が、それぞれの農協で育っていることを信じたい。

（副主任研究員　須田敏彦）

今月のテーマ：農業再編における農協の役割

21世紀の農協に期待されるもの …… 1
21世紀に向けた地域農業振興 …… 2
全農「安心システム」とその意義 ……3～4
地域農業振興と農協の役割（上）……5～6
都市農協の農業支援活動……7～8
ぶっくレビュー『20世紀社会主義農業の教訓』… 9
あぜみち……10
虹のかけ橋……11
統計の眼「農用地利用調整に対するJAの取り組み」…12
編集後記……12